



# 平成27年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月11日

上場取引所 東

上場会社名 加藤産業株式会社

コード番号 9869 URL <http://www.katosangyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 和弥

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 神月 豊

TEL 0798-33-7650

四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年9月期第3四半期の連結業績(平成26年10月1日～平成27年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年9月期第3四半期	688,590	19.6	6,777	0.6	7,789	3.1	4,802	11.1
26年9月期第3四半期	575,688	5.7	6,736	△13.3	7,554	△12.4	4,322	△18.0

(注) 包括利益 27年9月期第3四半期 10,663百万円 (80.3%) 26年9月期第3四半期 5,914百万円 (△25.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年9月期第3四半期	128.23	—
26年9月期第3四半期	115.40	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年9月期第3四半期	301,653	104,865	33.8
26年9月期	283,295	95,404	32.9

(参考) 自己資本 27年9月期第3四半期 101,819百万円 26年9月期 93,185百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年9月期	—	22.00	—	22.00	44.00
27年9月期	—	22.00	—	—	—
27年9月期(予想)	—	—	—	22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	910,000	17.9	9,100	1.2	10,050	0.5	6,200	7.2	165.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年9月期3Q	38,153,115 株	26年9月期	38,153,115 株
27年9月期3Q	701,245 株	26年9月期	700,520 株
27年9月期3Q	37,452,299 株	26年9月期3Q	37,452,858 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策及び日本銀行による金融緩和政策に伴う円安・株高効果と原油安の影響等を背景に、企業収益は改善傾向にあり、消費税増税後の個人消費にも持ち直しの兆しが見られ、景気は緩やかながら回復基調が続いています。海外の経済状況においては、米国経済は景気回復傾向が続いている一方で、中国経済は拡大テンポに減速感が見られます。そのような中、わが国の景気の先行きについては、雇用・所得環境の改善等により、今後も緩やかな回復が期待されますが、中国及び欧州をはじめとした海外景気の下振れリスク等により、依然として不透明な状況にありました。

食品流通業界におきましては、国内の雇用情勢及び所得環境が堅調に推移しているものの、消費税増税に加えて円安・原材料価格高騰による商品の値上げ等により家計への負担感がさらに増して、日常生活関連消費については生活防衛意識の強さが続いています。さらに、内食化傾向が続く中で企業間競争は一層激化し、人手不足に伴う物流コストの上昇も加わり、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況下において当社グループは、卸売業の役割である「つなぎ」と提案型営業を推進し、営業力のさらなる強化により小売業をはじめとした取引先との取り組みを一つひとつ積み重ね、店舗の売場づくり及び商品開発力のレベルアップを図ることで、価格だけに頼らない価値の提供に取り組みました。また、物流をはじめとした諸経費の抑制及び業務の生産性向上等のローコストオペレーションにより経営の合理化に努めました。

さらに、平成27年2月には、シンガポールに本社を置くNaspac Marketing Pte.Ltd.の株式を取得して連結子会社といたしました。これにより、すでに事業展開している中国及びベトナムとの協業を進めることで、アジア地域におけるより一層の事業展開の強化を図ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、平成26年に酒類卸売業である三陽物産㈱を連結子会社としたことも寄与して、前年同四半期に比べて19.6%増加し、6,885億90百万円となりました。利益につきましては、利益管理の徹底及び諸経費の抑制に努めたものの、引き続き物流コストの負担等により営業利益は67億77百万円(前年同四半期比0.6%増)となり、経常利益は77億89百万円(前年同四半期比3.1%増)となりました。そして、四半期純利益は前年同四半期に比べ11.1%増加し、48億2百万円となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

なお、各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

#### <常温流通事業>

当社グループの主力事業であります常温流通事業につきましては、日常生活関連消費については生活防衛意識の強さが続いている一方で、多様化する需要に対応すべく、価格だけに頼らない価値の提供に取り組むために提案型営業を推進し、仕入先とも連携して主要得意先との取り組みを強化いたしました。また、自社PB商品の開発及び拡売を図るとともに、売買差益の向上と経費の削減による利益管理を徹底いたしました。

以上の結果、売上高は4,787億18百万円(前年同四半期比3.0%増)となり、営業利益は物流コストの増加等により55億52百万円(前年同四半期比4.2%減)となりました。

#### <低温流通事業>

低温流通事業につきましては、生活品の値上げによる消費マインドの冷え込みや人手不足による物流コストの上昇もあり、依然として厳しい事業環境が続いております。このような状況下において、提案力強化による売上拡大を図るとともに、センター運営の見直し等によるコスト抑制に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は703億14百万円(前年同四半期比6.2%増)となり、営業利益は売上伸長による売上総利益額の増加及び諸経費の抑制により1億98百万円(前年同四半期比560.1%増)となりました。

#### <酒類流通事業>

酒類流通事業につきましては、第1四半期連結会計期間より三陽物産㈱の損益を連結対象としており、前年同四半期に比べて事業規模が大幅に拡大しております。

当第3四半期連結累計期間の酒類市場動向は、消費が成熟化する中で低価格化志向の常態化と同時に価格と価値を伴った少量上質化商品へのシフトが見られ、また健康志向に対応した機能性商品や口当たりの良いソフトアルコールの需要が女性を中心に高まってきておりますが、生き残りをかけた企業間のシェア競争及び価格競争が激化し、より一層厳しい経営環境で推移しました。

このような状況下において主要取引先及び主要仕入先との取り組み強化を図り、提案力や自販力の強化に努めるとともに、ローコスト化にも取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は1,466億54百万円(前年同四半期比202.8%増)となり、営業利益は2億62百万円(前年同四半期比5.5%減)となりました。

#### <その他>

その他の事業につきましては、物流関連がその主な事業内容であり、当社グループの売上が堅調に推移したことに加え、グループ外との取引も伸長した結果、売上高は81億67百万円(前年同四半期比6.5%増)となり、営業利益は物流事業の効率化及び原油安効果等により7億57百万円(前年同四半期比21.0%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ183億57百万円増加し3,016億53百万円となりました。

流動資産は主に、有価証券が減少した一方、売上債権並びに現金及び預金が増加したことから、41億94百万円増加し1,962億6百万円となりました。また固定資産は、投資有価証券の取得及び時価評価額の上昇等によるものと、連結範囲の変更によりのれん及び有形固定資産が増加したことから、141億63百万円増加し1,054億46百万円となりました。

流動負債は、主に仕入債務が増加したことから、68億38百万円増加し1,822億54百万円となり、固定負債は、投資有価証券の時価評価額の上昇等により繰延税金負債が増加したことから、20億57百万円増加し145億33百万円となりました。

純資産は、94億61百万円増加し1,048億65百万円となり、その結果、自己資本比率は33.8%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年11月7日の「平成26年9月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	59,862	60,544
受取手形及び売掛金	103,687	110,489
有価証券	4,107	700
商品及び製品	18,152	18,578
仕掛品	18	16
原材料及び貯蔵品	655	623
繰延税金資産	624	369
その他	5,407	5,388
貸倒引当金	△503	△504
流動資産合計	192,012	196,206
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,639	14,473
機械装置及び運搬具(純額)	1,851	2,385
工具、器具及び備品(純額)	339	389
土地	25,446	25,380
リース資産(純額)	1,450	1,616
建設仮勘定	16	1,067
有形固定資産合計	42,743	45,312
無形固定資産		
のれん	—	3,018
ソフトウェア	3,643	3,522
電話加入権	45	45
その他	69	57
無形固定資産合計	3,759	6,644
投資その他の資産		
投資有価証券	31,435	39,959
長期貸付金	264	275
差入保証金	5,173	5,338
投資不動産(純額)	3,201	3,334
繰延税金資産	628	427
退職給付に係る資産	380	524
その他	4,037	3,939
貸倒引当金	△342	△310
投資その他の資産合計	44,779	53,489
固定資産合計	91,282	105,446
資産合計	283,295	301,653

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	162,228	167,174
短期借入金	1,922	2,431
リース債務	439	501
未払金	7,155	8,794
未払費用	200	141
未払法人税等	1,348	1,118
未払消費税等	629	481
賞与引当金	1,229	634
役員賞与引当金	50	94
その他	210	881
流動負債合計	175,415	182,254
固定負債		
長期借入金	1,795	1,593
リース債務	1,117	1,193
繰延税金負債	2,786	4,890
役員退職慰労引当金	391	380
退職給付に係る負債	4,875	4,865
資産除去債務	132	133
その他	1,378	1,477
固定負債合計	12,475	14,533
負債合計	187,891	196,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,934	5,934
資本剰余金	8,806	8,806
利益剰余金	71,872	75,027
自己株式	△863	△865
株主資本合計	85,749	88,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,851	12,353
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	—	△6
退職給付に係る調整累計額	584	569
その他の包括利益累計額合計	7,436	12,917
少数株主持分	2,218	3,046
純資産合計	95,404	104,865
負債純資産合計	283,295	301,653

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
売上高	575,688	688,590
売上原価	536,501	643,680
売上総利益	39,186	44,910
販売費及び一般管理費	32,450	38,132
営業利益	6,736	6,777
営業外収益		
受取利息	85	118
受取配当金	505	537
持分法による投資利益	—	52
不動産賃貸料	134	189
売電収入	23	77
その他	251	376
営業外収益合計	1,000	1,352
営業外費用		
支払利息	7	50
持分法による投資損失	84	—
為替差損	—	70
不動産賃貸費用	59	90
貸倒引当金繰入額	0	0
売電費用	18	65
その他	12	63
営業外費用合計	183	340
経常利益	7,554	7,789
特別利益		
固定資産売却益	2	29
投資有価証券売却益	37	0
投資有価証券償還益	—	175
負ののれん発生益	165	—
子会社清算益	—	3
特別利益合計	204	208
特別損失		
段階取得に係る差損	267	—
固定資産除売却損	6	28
ゴルフ会員権評価損	0	—
電話加入権評価損	—	0
リース解約損	3	1
役員退職慰労金	280	—
特別損失合計	557	30
税金等調整前四半期純利益	7,201	7,968
法人税、住民税及び事業税	2,322	2,634
法人税等調整額	489	347
法人税等合計	2,812	2,981
少数株主損益調整前四半期純利益	4,389	4,986
少数株主利益	67	183
四半期純利益	4,322	4,802



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,389	4,986
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,649	5,700
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	—	△9
退職給付に係る調整額	△121	△15
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	1
その他の包括利益合計	1,525	5,677
四半期包括利益	5,914	10,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,800	10,283
少数株主に係る四半期包括利益	114	380

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	常温流通 事業	低温流通 事業	酒類流通 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	457,650	66,058	48,035	571,743	3,944	575,688	—	575,688
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,342	120	399	7,861	3,721	11,583	△11,583	—
計	464,992	66,178	48,434	579,605	7,666	587,272	△11,583	575,688
セグメント利益	5,798	30	277	6,106	625	6,731	4	6,736

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に物流事業であります。

2 セグメント利益の調整額4百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

当第3四半期連結会計期間において、三陽物産(株)の株式を追加取得し、同社及び同社子会社であるエス・エイ・エスジャパン(株)を連結子会社といたしました。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「酒類流通事業」のセグメント資産が26,724百万円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

平成26年6月に、三陽物産(株)及び同社子会社であるエス・エイ・エスジャパン(株)を連結子会社としたことにより、「酒類流通事業」セグメントにおいて、負ののれん発生益165百万円を計上しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、取得原価の配分等が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	常温流通 事業	低温流通 事業	酒類流通 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	471,203	70,235	142,927	684,366	4,223	688,590	—	688,590
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,514	79	3,726	11,320	3,943	15,264	△15,264	—
計	478,718	70,314	146,654	695,686	8,167	703,854	△15,264	688,590
セグメント利益	5,552	198	262	6,013	757	6,770	7	6,777

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に物流事業であります。

2 セグメント利益の調整額7百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。